

石油・天然ガスの少なくとも五〇パーセントは、カナダ資本が所有する。

一、石油・天然ガス生産の利益の一部は、ロイヤルティとしてカナダ国民に還元される。

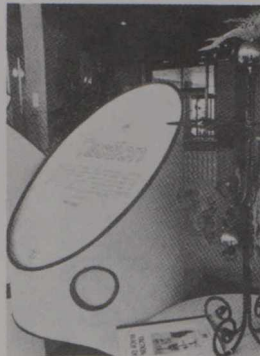
一、カナダの製造業者、コンサルタント、請負業者、サービス会社に、国有地での開発・生産活動が必要とされる物資やサービスを提供する公平な機会を与える。

国有地での石油・天然ガスの探査については、すでに十一社が大西洋沿岸で鉦区設定を申請し、受理されているほか、エッソ・リッセル・カナダほかカナダ企業十社が、北極のマッケンジー・デルタおよびボーフォート海での総額六億ドルにのぼる探査五か年計画に参加することになっている。

盲人向けに「触る」工芸展 オンタリオ州各地を巡回

目の不自由な人に工芸品の感触を楽しんでもらおうと、ユニークな「触る」工芸展（写真）が現在オンタリオ各地を巡回している。

この展覧会は、昨年の国際障害者年を記念してオンタリオ州工芸



振興協会が企画・主催しているもので、いろいろな素材で作られた、触って面白い作品十五点が、真中に穴のあいた、ブラックボックスのようなケースに一点づつ入れて展示されている。観客はこの穴から手を差し入れて、作品に触れるわけである。車椅子に乗っている人でも触れるように、ケースの底ははずしてある。作品の題やカタ口グも、大きな文字と点字で書かれており、目の不自由な人に細かな心くばりを見せている。

展示作品は、ブロンズ製レリーフ、石彫刻、ガラス製花びん、木製ポウル、織物、人形など。

カナダ・カウンスルが二十五周年 芸術文化の振興に大きな貢献

連邦政府がカナダの芸術を育てる目的で設立したカナダ・カウンスル（カナダ文化振興会）が、今年で創立二十五周年を迎えた。

カナダ・カウンスルの主な仕事は、全国の芸術家や芸術団体を、補助金や賞金の提供という形で援助することにある。対象は映画、演劇、舞踊、音楽、美術、出版など芸術文化全般にわたっている。

画家や小説家、劇場、楽団、美術館あるいは芸術家養成学校など、援助を受けたい個人や団体は、活動計画を提出して審査を受ける。審査には、カウンスルから委嘱された各地の芸術家や専門家（毎年約七百人）があたっている。こうして助成を受けた個人や機関はほ

ほとんど無数といってもよく、カウンスルがカナダの芸術文化の興隆に果たした役割はきわめて大きい。運営資金として、当初、五千万ドルの政府出資金を基金にそこから得られる利子収入などでまかなっていたが、活動規模の拡大に伴い、現在ではカウンスルの年間予算の大半を政府が負担している。

日加協会会長に山田忠義氏

近藤晋一氏の死去で空席になっていた日加協会の会長に、会長代行を務めた山田忠義氏（新日本製鉄顧問、世界貿易センター会長）（写真）が就任した。副会長には、奈良靖彦氏（元駐加大使）とマイケル・ガルブレイス氏（BC州林産業審議会日本総代表）が選ばれた。



日系作家に新人文学賞

第二次大戦中、強制収容された日系人の当時およびその後の生活を描いた小説「オバサン」の著者ジヨイ・コガワさんが、本年度のカナダ最優秀小説賞と優秀処女作賞を受賞した。コガワさんはトロント在住の日系詩人で、四十八歳。「オバサン」は昨年出版されて以来大好評で、米国でも出版されたほか、日本でも、二見書房から邦訳が予定されている。

日本とカナダの企業家およそ三百人が参加して札幌で開催された第五回日加経済人会議は、五月十九日、三日間の全日程を消化して閉幕した。

今回の会議は、厳しい世界経済情勢の中で開かれ、しかもカナダの対日自動車部品輸出問題、カナダからの対日石化製品輸入急増問題、一般工業製品の対日輸出問題などの懸案を抱えていただけに、従来とはやや趣きを異にしていた。しかし、「保護主義をとって門戸を閉ざすか、相互協力を拡大するか」の二つの道のうち、双方は協力の道を選んだ」とカナダ側のデビット・M・カルバー団長が述べたように、相互経済協力を今後とも推し進めることで両者は合意した。

四つの分科会のうち、工業製品分科会では、カナダ側が日本におけるカナダ製工業品の輸入拡大を求めた。これに対し、日本側はカナダの輸出促進に協力することを約束、双方の間で①日本側はカナダ側の販売努力に対して、日本貿易振興会（ジエト）と日本貿易会の協力を得てコンサルタント・サービスを斡旋する②カナダ側は製品輸入対策会議を通じて改善を図る③日加の第三国向け輸出協力を推進する——ことが合意され、そのために日加工業製品促進の窓口を設置することが決まった。

経済人会議、相互協力を確認 工業品の対日輸出促進で合意

また同分科会の自動車小分科会では、カナダ側がカナダの自動車部品産業での失業率が三八パーセントに達している現状をあげて日本側の輸出自主規制やカナダ製品の調達に対する協力を求めたが、日本側は今年十一月にトロントで開かれる自動車産業展示会「シテブ・アメリカ」に積極参加することを表明するにとどまった。

農林・水産・食品分科会では、カナダ側は従来通り、日本が安定した需要市場となるよう要請、またSPF材および針葉樹合板に対する関税引き下げを申し入れた。石炭など三分科会に分かれて討議したエネルギー分科会では、キャンドウ炉の第三国向け輸出について相互協力を検討することになったほか、カナダの石油開発に対する日本の投資、LNGの対日輸出について関心の一致を見た。

鉱産物分科会ではアルミニウム、銅、鉛、亜鉛、ニッケルの五品目について市場状況などを分析するとともに、カナダは日本の現在の精錬所に対する精鉱の供給を保障する、長期的展望として日加双方が精錬工場の立地について協議する——など合意した。

なお、今回の日加経済人会議は来年五月、カナダのモントリオールで開かれるが、同会議では観光分科会が追加設置されることが決まった。